

# 夢窓幼稚園通信第48号

2017年10月31日

昨日・今日と、台風の通り過ぎた御所の森へのお弁当を持ってのお出かけです。

少しひんやりとした森の中を、時々台風の戻り風が吹き抜けていき声があがります。

それでも大丈夫！ おひさまが黄色い光をあたたかく降り注いでくれますし、子どもたちは風の子ですから。それに、たくさんの秋が、いろいろ魅力的なものを用意して待っていてくれます。

どんぐりはつるつるで素敵に輝いて山盛り落ちています。緑色の広がりの中に黄色や赤やだいたいの葉が目立たのしませてくれます。

何か分からない実、木の枝、せみの抜けから...

座っても、寝そべっても、転がっても痛くない、ふわふわの落ち葉のじゅうたんや地面。

たくさん歩いた後のお弁当は、何とおいしかったことでしょう。

「何か」が待っていてくれるということ、「何か」が見えない向こう側に隠れているということ... はじめから予定や見通しがある訳ではなく、目の前に突然現われたり、出くわすという体験は、人生の中でも様々ありますが、子どもたちの森の中の大冒険もいっしょですね。

毎日とは言わないまでも、気軽に散歩をもっとしたいな！と思いました。

そんなのどかな、うれしい秋の遠足一日目を持ってました。

二日目の今日も、きっとたのしいお出かけになることでしょう。

子どもたちは昼間に出会ったものたちや出来事を、夜眠りの中にそっと静かに持ち込んで、ゆっくりと心の中に溶かして入れていくのでしょう。

だいたい、日の暮れるのが早くなりました。光から暗さの中への変化を味わうことは大切です。薄暗がりにローソクの光は似合います...

存在たちの微妙な変化・人の世の機微を知り、自分の内なる世界・心模様を大切に生きる方は... そんな小さな生活から始まるのかもしれない。

収穫への感謝、クリスマス...と、内的な時間へと季節はどんどん深まっていきますね。

31日の朝に 園長 升光 奉雄